

横浜市インフルエンザ流行情報 4号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

5区で注意報レベルとなりました。

【概況】

2014 年第 49 週(12 月 1~7 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **8.04** と増え続けています。区別では**緑区 13.83**、**瀬谷区 13.71**、**泉区 12.29**、**鶴見区 10.67**、**旭区 10.11** で注意報レベル(注意報発令基準値 10.00)です。年齢別では特に **10 歳代以下の報告数が増加**しています。

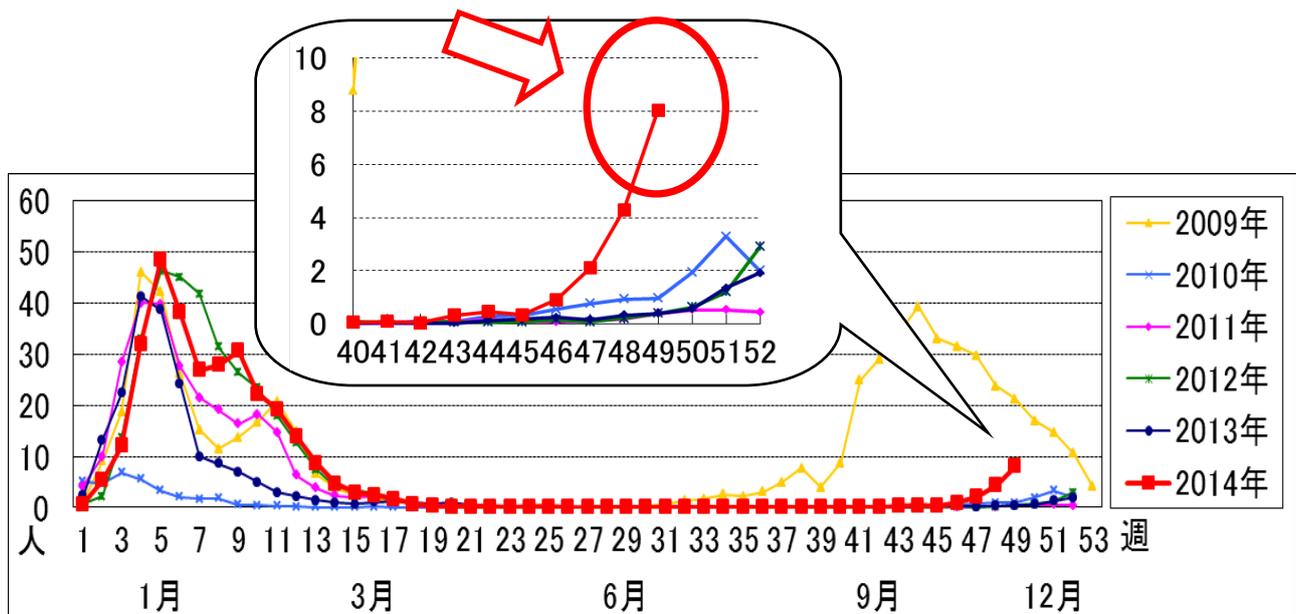
第 49 週の迅速キットの結果は **A 型が 98.9%**と、ほとんどを占めており、市内で 11 月以降検出されたウイルスはすべて **AH3 亜型(A 香港型)**です。ワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策^{※2}が重要です。

※1 定点・定点とは、毎週インフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内約 150 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

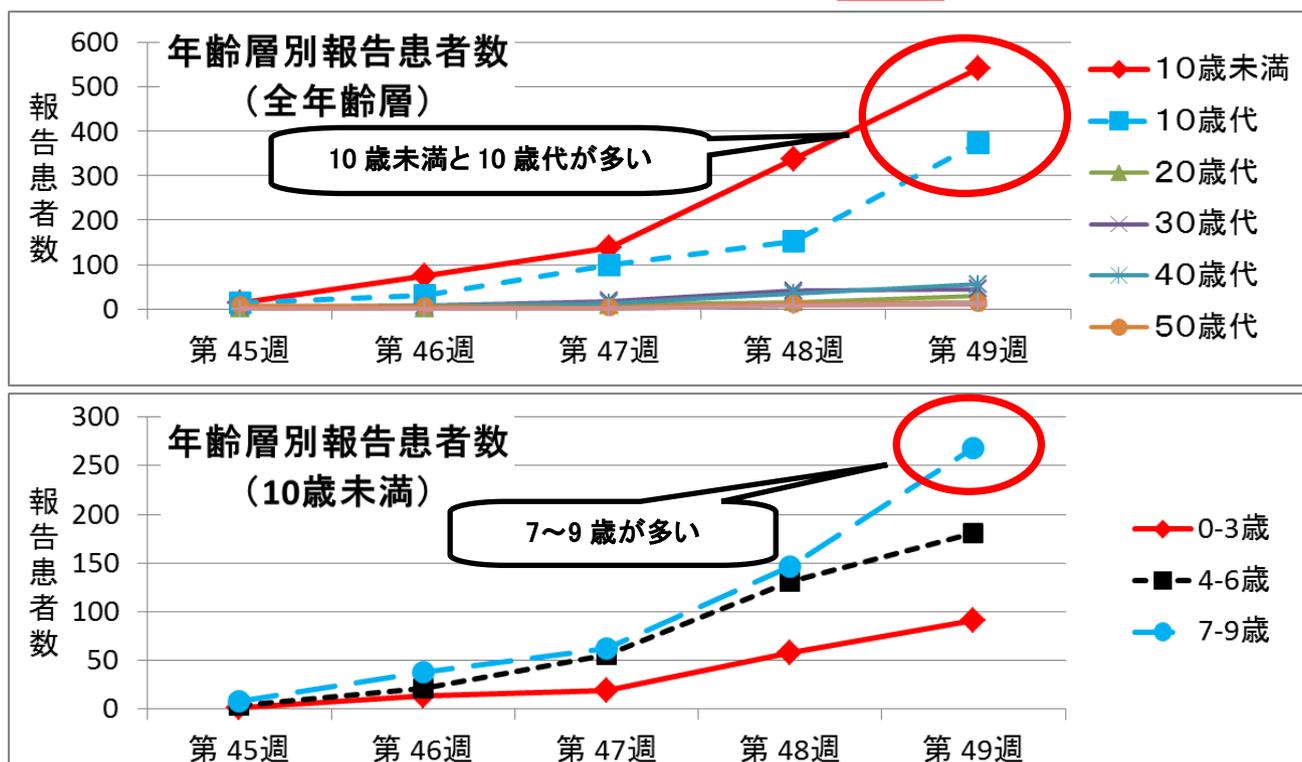
1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第 48 週 4.30^{※3}から**第 49 週 8.04**と増加しており、今後さらなる増加が予想されます。

※3 第 48 週 4.30・先週の流行情報では第 48 週 4.33 と報告しましたが、その後医療機関から追加報告があり、数値が変動しました。

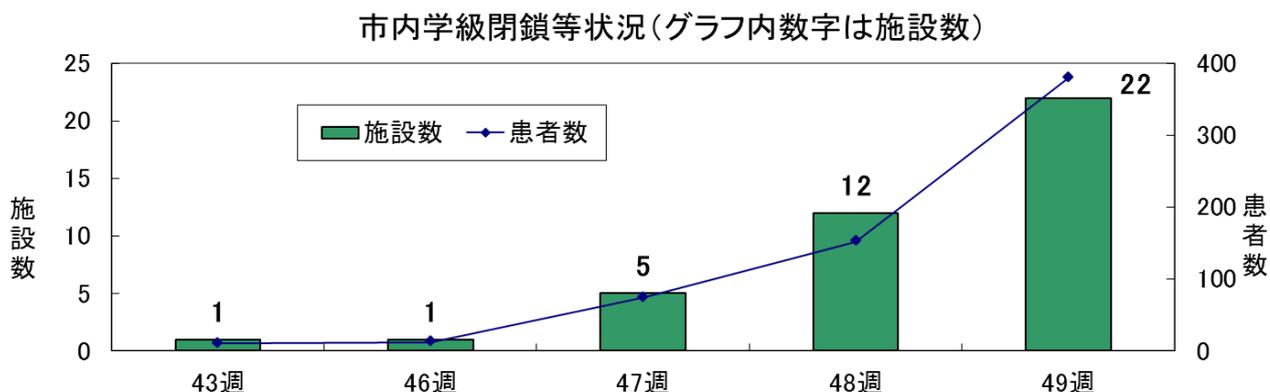


参考:近隣自治体の流行状況 [東京都](#)、[神奈川県](#)、[川崎市](#)

2 年齢層別患者報告数:直近5週間(第45~49週)では、**10歳未満および10歳代の増加**が著しくなっています。10歳未満の報告の内訳を見てみると、**7~9歳**が最も多くなっています。

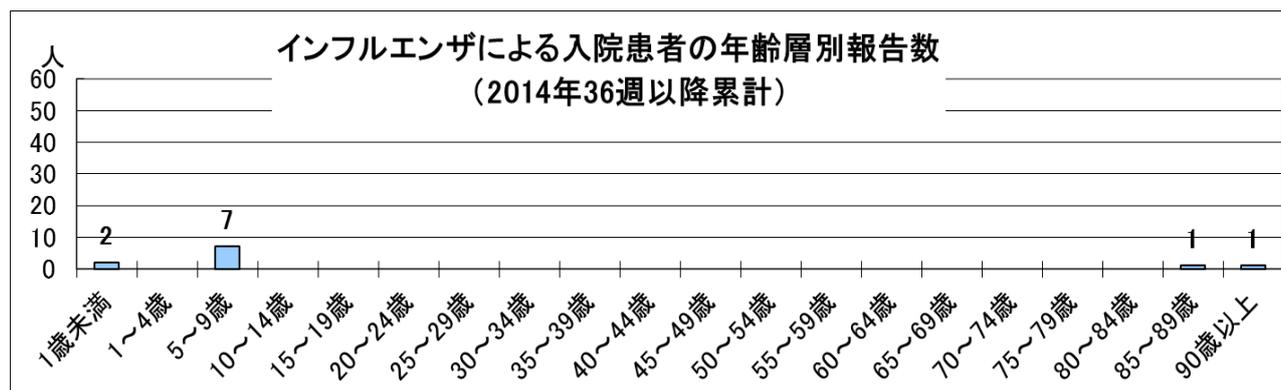


3 市内学級閉鎖等状況:市内閉鎖施設数が**急激に増加**しています。第49週の施設種別では、小学校15件、中学校4件、幼稚園2件、その他1件でした。

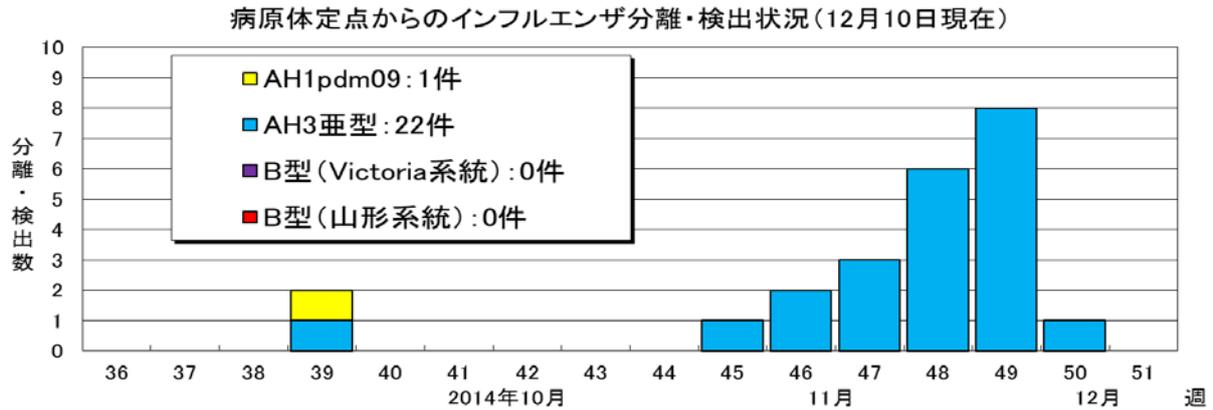


4 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※4}における、インフルエンザ入院患者数は今シーズン第36週以降の累計では**小児と高齢者**で報告されています。

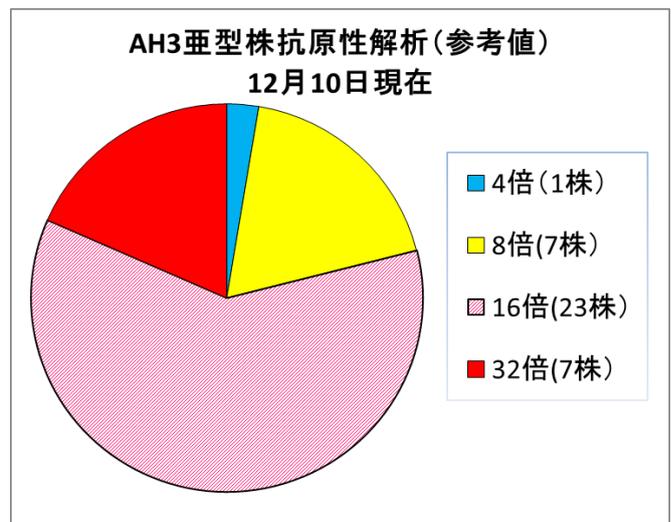
※4 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



5 市内病原体検出状況:市内では病原体定点から今シーズン計 23 件インフルエンザウイルスが分離・検出されていますが、第 39 週に AH1pdm09 が 1 件検出されて以降は**すべて AH3 亜型**です。



6 分離株の抗原性解析と薬剤感受性検査:市内で検出された AH3 亜型株(病原体定点以外も含む)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)では、**ほとんどの株が HI 価 8 倍以上**でした。一般的に 4 倍以内でワクチン株と類似していると言われています。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です。正確な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。薬剤感受性試験では、AH3 亜型株(10 株)、AH1pdm09 株(1 株)を分析したところ、**主な薬剤への感受性低下は認めません**でした。



5 地図で表した直近 2 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

